

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



Photo

万行寺のある平根地区は桃源郷
です。青空に映えるピンク色の花
は、ウイルス感染症に伴う私たちの
荒んだ心を癒やしてくれています。

年忌法要表

1周忌	2019(令和1)年	23回忌	1998(平成10)年
3回忌	2018(平成30)年	25回忌	1996(平成8)年
7回忌	2014(平成26)年	27回忌	1994(平成6)年
13回忌	2008(平成20)年	33回忌	1988(昭和63)年
17回忌	2004(平成16)年	50回忌	1971(昭和46)年

住職 法話

つながって広がる「ご縁」

人類にとって未知のウイルスが強い感染力をもって世界中を不安にさせています。新型コロナウイルス感染症の広がりが止まりません。外出自粛や休業要請の中で、各々が体験したのではない対応に追われていることでしょう。地方への広がりも進み始め、どこで感染してもおかしくない身近なものになってしまふことが恐怖です。

なかでも衝撃的だったのが、志村けんさんの訃報でした。感染が報道されたのも驚かされましたが、いずれ完治して元気なお姿で復帰されるのかと誰もが思っていたのではないのでしょうか。突然、伝

えられた訃報は衝撃的でした。長年、お笑いの世界で活躍され、テレビでは全国民と言つていいほど知らない人はいないほど親しまれた方でした。また、葬送においても、感染を防ぐためにご遺族はご遺体にも会うことが出来ず、お骨になってやつとご遺族にお会いすることができるといふ現実を初めて知らされることにもなりました。志村けんさんの死は、誰もが知つている身近な存在として捉えられ、この感染症の厳しさを知らされ、悲しみと共に悔しさを共感させて頂きました。

の一大事として説かれています。私も、身近な方の死を一人ひとり自分の問題としてお話しするご法話をさせて頂きますが、心の中では「私はまだ大丈夫」と死を他人事として捉えられてない自分がまだあることに気づかされます。

で、身近な言葉では「ご縁」と言われます。簡単に言うところ「あらゆるものが相まつてつながっている」ということです。人間であれば誰もが感染し、放つておくと大変な事態になるといふ世の中になつて、静かにみんなであつて乗り越えていこうという意識が芽生えているのではないのでしょうか。

浄土真宗本願寺派が進めている実践運動のテーマが、「そつとつながる ホツがつたわる」です。このテーマそのものが、いま静かに実践されていくことを願いたいものです。

仏教では、生死しやうじの苦しみの問題は、他人事ではなく自らお釈迦さまの説かれた「縁起えんぎ」



浄土真宗

⑧ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「線香と焼香」

お香をたく理由はなに？

お香は体臭などの悪臭を除き、心身ともに落ちつかせてくれるところから、これを仏前にお供えすることが早くから行われてきました。お香の芳しい薫りで身を包み、すがすがしい気持ちで尊敬する仏さまに接してきたのです。

また、そうしたお香をかぐことによって清らかな浄土を想い、さらには、誰かれと差別することなくゆきわたるお香の薫りから、仏さまのわけ

へだてなく注いでくださる慈悲のお心に触れるという意味もあります。

ところで、そのお香の種類は、一般家庭では焼香と焼香用のお香べらいではないかと思えます。いずれも香炉にくべるのと言いつまでもありませんが、香炉にも種類があり、使い分けられています。

まず、日常的に使われる線香は、土香炉と呼ばれる口の広い陶磁器製の香炉で燃やし

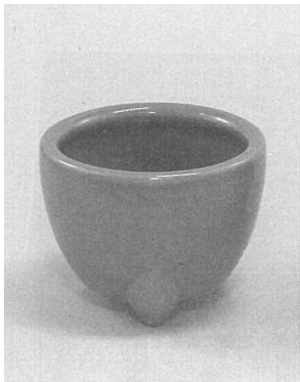


ます。この際、線香は立てずに、短く数本に折って寝かせます。

次に、法事などの改まった時に行う焼香は、フタのついた金属製の金香炉を用います。つまり、火種を入れて使用するのが金香炉なのです。ときどき、金香炉で線香を燃やす方がいますが、金香炉では口が狭く、形の上からも線

香を寝かせるには適しません。どうぞ土香炉を用いてください。

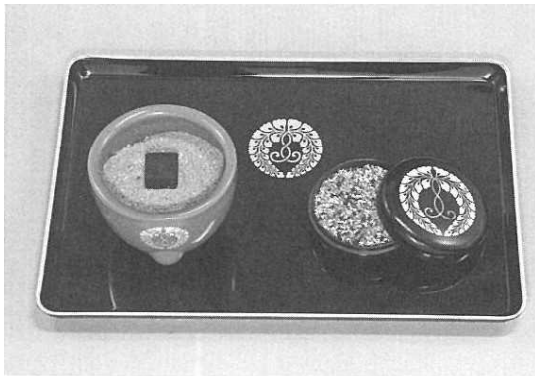
ただ、大勢の方がたが次々に焼香するような、いわゆる“回し焼香”の場合などは、お仏壇の金香炉では小さすぎる場合があります。そんな時は土香炉を代用してもよいでしょう。なお、回し焼香される場合、お盆を用意し、左側に香炉を、右側には刻んだお



土香炉



金香炉



左側に香炉、右側に香盆を置く

香を入れた香盒かうごうといわれる容器を置きます。〈写真参照〉。

焼香に使うお香には沈香、十種香、五種香などがありま
す。なるべく薰りよいお香を
お使いください。

香炉かうろの配置については先にも触れましたが、三具足としてローソク立て、花瓶とともに、金・土両香炉を前後に並べて置くのがかたちですが、並べて置くスペースがない場合は、焼香する場合のみ金香炉かなじゅうろを前卓まえしよくに置き、それ以外は土香炉を置きます。

ポイント

▼お香で浄土と仏さまの慈悲のお心に触れる

▼線香は土香炉 焼香は金香炉

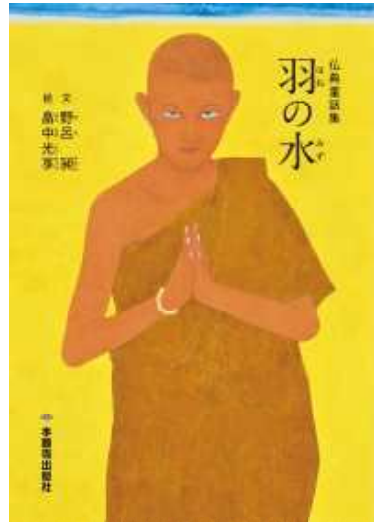
▼線香は立てずに折って寝かせる

～本願寺の本～

「羽の水 仏典童話集」

野呂 昶さかん (文) / 畠中光 亨こうきょう (絵)

本願寺出版社 発行 2,800円＋税



約2500年前、お釈迦さまが弟子や町や村の人々に語られたお話(経典)をもとにした童話集。

経典を現代の人々に正しく伝えるため、童話文学として美と真を追究し、その深い感動を現代の言葉と美しい絵で紡いだ渾身の傑作。児童文学作家

野呂 昶さかん 氏による、子どもから大人まで楽しめるこころ温まる物語を、インド美術にも精通する日本画家 畠中光 亨こうきょう 氏のすばらしい絵が彩る、珠玉の一冊。

浄土真宗本願寺派保育連盟発行資料「まことの保育」に連載中の仏典童話シリーズから、二十篇を選び単行本化。(本願寺出版社ホームページより)

編集後記

前号で、個人情報報の面からホームページで寺報の掲載を休むとお伝えしましたが、送付には別紙を添付することで解決しますので寺報の掲載は続けたいと思います。また、ホームページでは、これまでの「住職法話」をブログで整理してあります。ご覧下さい。◆マスク、手洗い、うがいと、ウイルス感染予防の習慣が日常を変えていきます。人とのつき合い方も変わり、仏事も簡略化の波に従わざるをえなくなっています。三密にならない葬儀になり、お経も少しペースをあげて、早めに終わらせるようにしています。お互いに気をつけましょう。